

新岡垣風土記

第 405 回

岡垣射爆撃場の歴史②

岡垣歴史文化研究会 入江東樹

【郷土守備隊】

1945（昭和20）年3月、岡垣地域の防衛は芦屋の師団が担当した。

岡垣村に配備された聯隊れんたい名は明らかではないが、海老津にあったという。

岡垣での大隊や中隊は、内浦や吉木、山田、戸切の各国民学校校舎を、兵舎として使用した。児童らは学校近くのお宮や神社を借りて勉強した。

米軍の作戦は「北部九州では、まず三里松原海岸に艦砲射撃を加えた後に、上陸するだろう」と想定され、周辺に陣地を構築した。

筆者は糠塚で育った。家から100メートルのところに公会堂（公民館）があつて、兵隊さんがいた。筆者は当時3歳だったので、兵隊さんということは分からなかった。後年に知った。

公会堂に何度か出掛けて行つ

て、兵隊さんから金平糖こんべいとうをもらったことを覚えている。

同年5月、芦屋に空襲警報が発令され、米軍機グラマン10数機が現れ、陸軍芦屋飛行場の格納庫を機銃掃射するとともに、数発の爆弾を投下した。

同年8月15日、日本軍は連合軍に降伏して、終戦となった。

【戦後の三里松原】

一 三里松原払い下げ問題

1945年11月、北九州の八幡市が、三里松原の払い下げを申請した。食料事情を克服するために、松原の一面を食料供給地として確保しようとした。

その計画は松原を伐採して畑地を造成し、そこまで軌道を敷設して、野菜類を搬送するというものだった。また、八幡市は当時、し尿を海上投棄していたが困難になったので、し尿を肥料として、軌道で岡垣に搬入



▲八幡市営電車軌道予定図

したいと考えていた。

翌年の1月、防風保安林を守る立場から、払い下げ反対の村民大会が、内浦や吉木、山田の各小学校で行われた。

同月、村議会で払い下げ反対が決議された。

同2月、村民大会が開催され、「三里松原伐採反対」の嘆願書が採択された。陳情団が編成され上京した。

農林大臣は村民の願いを認め、

払い下げ申請の却下を約束した。こうして三里松原の伐採は免れた。

芦屋に設置されていた陸軍飛行場は日本軍の降伏と共に、米軍に接收された。

1946（昭和21）年4月、米軍の部隊が芦屋に進駐してきた。占領軍だが、進駐軍と呼ばれた。

同年8月、米軍は松原（岡垣内）の37ヘクタールを伐採し、対地射爆撃場を開設した。

八幡市からの「松原払い下げ申請」には反対できたが、占領軍の施策には反対できなかった。

三 朝鮮戦争と米軍芦屋基地

1950（昭和25）年6月、朝鮮戦争の勃発で、芦屋基地は米軍の兵士や武器弾薬の輸送基地となった。

翌年3月、米軍は新たに松原を伐採して、司令塔や標的などの設備の充実を図った。

1953（昭和28）年7月、朝鮮戦争は終結した。